

日本語を母語とする標準アラビア語学習者のナレーションに関する : 考察 動詞と副詞表現を中心に

その他のタイトル	Standard Arabic Expressions in Narration by Native Japanese Speakers: Focusing on Verbal and Adverbial Expressions
著者	ハッサン エバ
雑誌名	東京大学言語学論集 = Tokyo University linguistic papers (TULIP)
巻	41
号	TULIP
ページ	51-70
発行年	2019-09-30
URL	http://doi.org/10.15083/00078580

日本語を母語とする標準アラビア語学習者の ナレーションに関する一考察

—動詞と副詞表現を中心に—

ハッサン・エバ

ebahssn@gmail.com

キーワード: 標準アラビア語 アラビア語学習者 ナレーション 動詞 副詞 移動表現

要旨

本研究では、日本語母語話者がアラビア語で事象を描写する際、動詞や副詞をどのようにして選出するかを実験の結果に基づいて考察した。また、標準アラビア語学習者とアラビア語母語話者とは表現に違いがあるのか、あるとしたら、どのような違いなのかを検証した。日本語と標準アラビア語は、まったく異なった言語体系を持つため、学習者は標準アラビア語で表現する際は母語である日本語の影響を受けることもあれば、標準アラビア語らしい表現を使うこともある。また、事象の様態を描写する副詞についても、どのような表現の特徴が見られるかを検証した。

1. はじめに

標準アラビア語（以下では、アラビア語と略する）を学ぶ日本語母語話者は様々な困難に直面するが、特に母語にはない言語特徴を習得するのは難しく感じられるようである。

形態論的に見て、膠着語である日本語の言語体系と異なる屈折語であるアラビア語では、動詞の活用や時制などによる動詞の形態変化や、さらに、他動詞の目的語が代名詞の場合、動詞の語末に付加する。例文 1 を参照。

(1) sa-ʔa:kulu-ha:

will-eat.imper.1sing-3fem.acc.

(私は) それを食べる。

また、主語と動詞の語順は SV と VS の両方があるが、後者の語順は日本語と大きく異なるため、習得に時間がややかかるようである。例文 2 で見るように、動詞は文頭に現れ、関係節は主要部の後に生じ、副詞は文末に来る。副詞→関係節→主節という日本語の語順と異なるため、難しいと感じられる。

- (2) ḍahaba[^] tʔa:lib-u ʔila: maka:n-in haiθu yuqa:bilu
perf.go.3ml. def.student-nom. to place-gen. rel.cl. imper.meet.3ml.
asʔdiqa:ʔ-a-hu da:ʔiman
friend.pl-acc-3sing.gen. always
その学生はいつも友達と会う場所に行った。

他にも、日本語と異なる発音、動詞の完了形及び未完了形、命令形等の人称変化、動詞の派生パターンという形態変化などは、ハードルが高く学習が難しいと思われる。

1.1. 習得しやすい要素

アラビア語は日本語母語話者にとって習得が難しいと考えられるが、意外と習得しやすいと考えられる要素もある。例えば、例文 3 で見るように、コピュラ文の一種である名詞述語文を見ると、英語やフランス語と違って **be** 動詞を使わない。また、日本語のように格助詞も存在せず、名詞を並べるだけ成立する。

- (3) ana: tʔa:lib-(un)¹

I friend-(nom)

私は学生です。

このように、日本語とほぼ同じ順番で名詞を並列するだけで、名詞述語文が成立する。また、限定用法の形容詞は被修飾名詞と並べるだけでよいが、名詞と形容詞の語順は日本語と逆になる。

- (4) bayt-(un) kabi:r-(un)

house-(nom) big-(nom)

大きい家

名詞述語文以外では、存在文も比較的習得が容易であると考えられる。アラビア語の存在文は「いる・ある」のような動詞が不要であり、前置詞句のみで述語が成立する。例文 5 を参照。

- (5) ana: fi[^] l-bayt-(i)

I in def-house-(gen.)

私は家にいる。

¹ 会話時に、名詞の語尾に現れる格変化は省かれることが殆どなので、会話で使用する場合、語尾の格変化を()に入れる。

- (6) assifa:ra-(t-u) fi: ha:ða^ ʃʃa:riʃ-(i)
 embassy-(nom.) in this def.street-(gen.)
 大使館はこの通りにある。

このように、学習が難しいと思われるアラビア語にも、名詞述語文、存在文など、習得しやすいと感じられる構文がある。

1.2. 習得が難しい要素

前述したように、動詞の時制及び人称の屈折や語順の習得には時間がかかるが、ある程度人称変化などを練習すれば克服できる問題である。一方、暗記で解決しない問題としては、名詞・形容詞の複数形の体系がある。アラビア語には、規則複数と不規則複数の2種類があり、後者の名詞・形容詞の類の方が圧倒的に数が多いが、これらは暗記するほかない。まずは、規則性のある複数形態の作り方は以下のようにまとめられる²。

表 1. 規則複数形

名詞 (女性)	複数形 (主格)	複数形 (対格・属格)	女性形複数形 (主格、対格/属格)
mudarris(a) 教師	mudarrisu:na	mudarrisi:na	mudarrisa:t(un, in)
ya:ba:niyy(a) 日本人	ya:ba:niyyu:na	ya:ba:niyyi:na	ya:ba:niyya:t(un, in)
mumta:z(a) 優秀な	mumta:zu:na	mumta:zi:na	mumta:za:t(un, in)
masʔu:l(a) 責任者	masʔu:lu:na	masʔu:li:na	masʔu:lat(un, in)
maʃʔu:l(a) 忙しい	maʃʔu:lu:na	maʃʔu:li:na	maʃʔu:la:t(un, in)
mutarjim(a) 通訳者	mutarjimu:na	mutarjimi:na	mutarjima:t(un, in)
muði:ʃ(a) レポーター	muði:ʃu:na	muði:ʃi:na	muði:ʃa:t(un, in)
muwatthaf(a) 職員	muwatthafu:na	muwatthafi:na	muwatthafa:t(un, in)

² 表の中の「名詞」には、文法格を表示していない。また、他の表には、滅多に発音されないため、格を省いている。

上記の規則複数形は国籍や職業、状態等を表すものが多い。名詞・形容詞の語尾に、主格の場合は u:na、対格及び属格の場合は i:na を付加する。また、女性形の場合は、a:t を語尾に付加するが、格はさらに語尾に表示される。但し、会話では、格は殆ど発音されない。一方、不規則複数形では、名詞・形容詞の語幹そのもの及び母音が変わり、前述したようにその類の複数形が多い。

表 2. 不規則複数形

名詞・形容詞 (意味)	複数形	女性形
tʻa:lib (学生)	tʻulla:b	tʻa:liba:t
ʔusta:ð (先生)	ʔasa:tiða	ʔusta:ða:t
ʕarabiyy (アラブ人)	ʕarab	ʕarabiyyat
mudi:r (所長)	mudara:ʔ	mudi:ra:t
sadi:q (友人)	ʔasdiqa:ʔ	Sadi:qa:t
masjid (モスク)	masa:jjid	
ku:b (コップ)	ʔakuwa:b	
zahra (花)	zuhu:r	
bayt (家)	buyu:t	
madrasa (学校)	mada:ris	
mabna (建物)	maba:ni:	
ħadi:qa (公園)	ħada:ʔiq	
ja:riʕ (道)	ja:wa:riʕ	
ħizb (党)	ʔahza:b	
ja:hr (月)	juhu:r	

しかし、無生物の女性形の名詞の多くは規則性があり、人間の女性形の名詞と同じように、語尾に a:t を付加する。

表 3. 無生物の女性形名詞複数形

名詞 (女性形)	複数形
maktaba (図書館)	maktaba:t
ja:miʕa (大学)	ja:miʕa:t
sa:ʕa (時計)	sa:ʕa:t
sayya:ra (自動車)	sayya:ra:t
luya (言語)	luya:t
kalima (一語)	kalmia:t
tʻa:wila (テーブル)	tʻa:wila:t

bina:ya (建物)	bina:ya:t
tarjama (翻訳)	tarjama:t
wila:ya (州)	wila:ya:t

2. アラビア語の動詞・副詞について

アラビア語の移動表現に使われる動詞には、経路を意味に含んだものもあれば、様態を意味に含んだものもあり、どちらが基本的とはいえない。

(7) a. daxala[^] l-yurfat-a musriʕan
 enter.perf.3sing.ml. def-room-acc. in a hurry
 Path Ground Manner

彼は急いで部屋に入った。

b. xaraja min[^] al-yurfat-i
 got out.perf.3sing.ml. from def-room-gen
 Path Path Ground

彼は部屋を出た。

(8) a. harwala ʔila[^] l-yurfat-i
 hurry.perf.3sing.ml. into def-room-gen.
 Manner Path Ground

彼は部屋にかけ込んだ。

b. harwala ʔila[^] xa:rija l-yurfat-i
 hurry.perf.3sing.ml. into outside def-room-gen.
 Manner Path Path Ground

彼は部屋の外へ急いで出た。

このようにアラビア語では、主動詞が「経路」または「様態」を描写することになるが、Frog Story (1969)を語る際には、どちらの表現の方が表出されるのか、また、アラビア語学習者とアラビア語母語話者の表現がどのくらい一致するかをしてみる。

2.1. アラビア語の動詞について

アラビア語の動詞には、経路や様態などが表されているものがある。以下の動詞はアラビア語学において、様態、時間帯などを表しているとされる。

表 4. 経路や様態を含む動詞

動詞	意味	その他
ra:ha	「夜」にどこかへ行く	今は時間と関係なく使われることもある。
xaraja	いる場所より「広いところに」出る	
baraha	ある場所を離れる、ある場所から消える	
in ^f alaqa	「勢いよく早く」移動する	
mad ^a :	徐々に視野から消えていく	
tarannaha	「よろよろ」しながら歩く	
harwala	「急いで」移動する	
in ^ʕ at ^a afa	「曲がりながら」移動する	
?as ^b baha	「朝」を迎えて過ごす	
?amsa:	「夜」を迎えて過ごす	
?abhara	「海を渡って」行く	
ba:ta	「夜から翌朝まで」過ごす	

- (9) ?amsa[^] l-walad-u ħazi:n-an
 be at night.perf.3sing.ml. def-boy-nom. sadly-acc.
 少年は悲しく夜を迎えた。

2.2. アラビア語における副詞表現の種類

アラビア語の副詞は伝統的には、①名詞句副詞、②前置詞句副詞、③動詞句副詞と3種類に分けられている。以下、Neama (1973)の記述を紹介する。

I 「名詞句副詞」

不定名詞の形態を取り、被修飾対象の数及び性に応じて屈折をする。動作主の様態を表すが、動作を行っている際に限っての様態であり、動作主の本質的な様態を示しているわけではない。例えば、例文(3)では、「微笑む」という動詞から派生した *mubtasim(an)* は教師の様態を表すが、答えている時に限っての様態のみ示していて、教師の本質的・恒久的な特徴または様態を示していない。この名詞句副詞の文法標識は対格である。この種類で使われている名詞は、動名詞、能動分詞、受動分詞などという動詞の派生素素である。例文(3)の *mubtasim* を考えると、*ibtasama* (微笑む) という動詞から派生した能動分詞、つまり、「微笑んでいる人」という意味を表す。本稿では、この類の副詞を便宜上「動名詞・分詞副詞」と名付ける。

- (3) ?aja:ba[^] l-usta:ð-u mubtasim-an
replied def-teacher-nom. smiling (with smile)-acc.
教師は微笑んで答えた。

II 「前置詞句副詞」

その名の通り、前置詞を用いた副詞句である。

- (4) yajibu[^] ððiha:b-u ?ila: haða[^] l-mat^ʕam-i,
must going-nom. to this def-restaurant-gen.
bi-l-mala:bis-i[^] rrasmiyat-i
with-def-clothes-gen. formal-gen.
そのレストランは、フォーマルな恰好で行かなくてはならない。

この副詞は、必ず前置詞と名詞の組み合わせでできている。この類の副詞は、移動表現を修飾する際には使われないため、本稿では扱わない。

III 「動詞節副詞」

動詞を用いた副詞節のことを言い、日本語の「～しながら」節に近いと考えられる。

- (5) maʃa: wa huwa yuyanni:
walked and he sings
彼は歌いながら歩いた。

例文(5)では、主動詞が表すイベント「歩いた」と同時に共起した付随的なイベント「歌う」を表している。

以上、伝統文法で取り上げられている副詞を紹介したが、最後の動詞節副詞については疑問に思う点があるため、再分類をする必要があると考える。

2.2.1. 動名詞・分詞副詞句

この類の副詞は、伝統的な文法の「名詞句副詞」に当たるものである。動名詞・分詞副詞は、動詞の派生形分詞及び動名詞が用いられ、対格形を取るという形態的な特徴を持つ。この種の機能は、動詞が表すイベントそのものを修飾して描写することである。

(6) a. wa qa:la ʕamm-u-hu muwa:siy-an, 'sawfa
 and say.perf.3sing.ml. uncle-nom-gen.3sing.ml. consoled-acc. will
 ʔaʕu:du'
 return.imper.1sing.

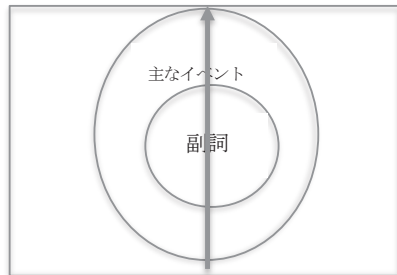
彼のおじは、「きっと戻ってくるよ」と慰めて言った。

b. daxala al-rajul-u ʔila-l matʕbax, wa zamʕara
 enter.3sing.ml.pst. def.-man-nom. to-def. kitchen and mutter.3sing.ml.pst
 qaʔil-an
 say.nom.part.sing.ml-acc

男性は台所に入って、ガミガミ言った。

例文(6a)は「慰める様子」は、主節である「言う」イベントの様態を表しており、例文(6b)では「ガミガミ言う」は「言う」という一つのイベントの様態を表現する。動名詞・分詞副詞は主なイベントそのものの様態を表し、意味を完成させる機能を持っている。この動名詞・分詞は動詞から派生したもので、単独で使うことはできない。以下の図はこの種の副詞を表す。

図 1. 動名詞・分詞副詞



2.2.2. 主語明示副詞節

これは、伝統的には「動詞句副詞」に当たる。この類の副詞の形態的特徴は以下の通りである。

- ①and に当たる接続詞 wa が出現する。
- ②接続詞 wa に続いて人称代名詞³(eg. huwa (he))が出現する。
- ③wa huwa に続いて未完了形の動詞が現れ、副詞節が成立する。

³ 人称代名詞の他に、普通の名詞も使われるが、人称代名詞の方が使用頻度が高い。

- (7) tajammada fi: maka:n-i-hi, wa huwa
freeze.perf.3sing.ml. in place-gen-3sing.poss. and he
yatasa:ʔalu, ʔaina ʔafya:ʔ-i:
ask oneself.imper.3sing.ml where belongings-poss.1sing.
彼は、自分の荷物はどこだ、と自問しながら立ち尽くした。
- (8) rakadʔa^ l-lisʔsʔ-u bi-ʔaqsʔa: surfat-in,
run.perf.3sing.ml. def-thief-nom. with-extreme speed-gen.
wa^ l-kalb-u yula:hiqu-hu
and def-dog-nom. chase.imper.3sing.ml-3sing.ml.acc.
泥棒は、犬に追いかけられながら全速力で走った。
- (9) radda ʕalay-ha: wa huwa yaftahu^
reply.perf.3sing.ml. on-poss.3sing.fm. and he open.imperf.3sing.ml.
l-kita:b-a
def-book-acc.
彼は本を開きながら彼女に返事した。

形態的特徴②、主語である（代）名詞を用いるが、必ずしも主節の主語と同一指示とは限らず、主節の他の要素と一致することも可能である。

また、特徴③、動詞の特徴としては、主節の動詞の時制を担わず、常に未完了形を取る。この主語明示副詞節の機能的特徴は、主節動詞が表すイベントとは別個のイベントを表すことである。つまり、主節が表すイベントと主語明示副詞節が表すのは、同時に並行して起きる別個の二つのイベントである。

例文(8)は、主節では完了したイベント *rakadʔa*（走った）が語られており、主語明示副詞節では主節のイベントに並行して付随的に起きたもう一つのイベント（犬が追いかけている）が表されている。この例の場合は、主節の主語（泥棒）は、主語明示副詞節の主語（犬）と異なっているが、副詞節の動詞は主節の時制を担わず、未完了形になる。

図 2. 主語明示副詞節



2.2.3. 主語非明示副詞節

この種の副詞は以下の形態的特徴を持つ。

1. 前述の「主語明示副詞節」と形態的に似ているが、例文(7)-(9)における副詞節の「wa+（代）

名詞」の部分がない点異なる。

2. 副詞節の主語は主節の主語と一致しなくてはならない。
3. 副詞節の動詞は主節の主語と一致しなくてはならない。

(10) qafaza Harry fi^ l-fad'a:ʔ-i yaltaqiʔu^
 jump.perf.3sing.ml. Harry at def-space-gen. pick.imper.3sing.ml.
 l-xit'a:b-a^ tʔfa:ʔir-a
 def-letter-acc. def.flying-acc.

ハリーは飛んでいる手紙を掴もうとして空中を飛んだ。

(11) xaraja^ l-walad-u yalhaqu
 get out.perf.3sing.ml. def-boy-nom. chase.imper.3sing.ml.
 bi-wa:lid-i-hi, wa howa yaʔkulu^ l-aiskre:m-a
 with-father-gen-poss. and he eat.imper.3sing.ml. def-ice cream-acc.

子供はアイスクリームを食べながらお父さんを追いかけて、(家の)外に出た。

上記の例文では、主語非明示副詞節が用いられており、主節のイベントと副詞節のイベントの間に「手段・目的」の関係がある。例えば、例文(10)では「空中を飛んだ」という主節のイベントは「飛んでいる手紙をつかむ」という副詞節の修飾イベントを目的とする手段である。

例文(11)には、主語明示副詞と主語非明示副詞の2種類の副詞が用いられており、主節に対して異なる機能を果たしている。まず、「出る」という主節のイベントの目的は「お父さんを追いかける」という「主語非明示副詞」で表されているイベントである。次に、主語明示副詞はこの両イベントとは独立した別のイベント「アイスクリームを食べる」を表す。この主語非明示副詞は主語明示副詞より使用頻度が低い。

図 3. 主語非明示副詞節



2.3. まとめ

アラビア語には、様態、経路、時間を意味に含む動詞があり、また、副詞節によって付随的な要素を表すこともできる。アラビア語の動詞を修飾する副詞は、1. 「動名詞・分詞副詞句」、2. 「主語明示副詞節」、3. 「主語非明示副詞節」の3つに分類できることを提案した。

これらの形態の相違に伴い、機能の相違も見られる。「動名詞・分詞副詞句」は主節のイベントの様態を描写するのに対して、「主語明示副詞」は主節のイベントに付随して同時に発生する

付帯状況を表す。最後に、「主語非明示副詞節」と主節が表すイベントは「目的・手段」の関係にある。

3. アラビア語学習者のナレーション

本研究のための実験に使ったのは、文字のない絵本 *Frog Story* の ‘Frog, Where are you?’ というもので、多くの移動のイベントが含まれている。調査方法は、学習者に一つ一つの絵の内容をアラビア語で表現するように指示して語ってもらい、その発話内容を記録し分析を行った。アラビア語中級レベルの学習者5名（女性3名、男性2名、20代後半～30代前半）を対象として、アラビア語母語話者4名（女性2名、男性2名、全員30代）からもデータを取った。

Frog Story の内容は以下の通り。犬と一緒に暮らしている少年が、一匹のカエルをビンの中に入れて飼っている。しかし、ある夜寝ている間に、カエルがビンの外へ逃げ出してしまう。男の子は朝起きてカエルがいないことに気づき、犬と一緒にカエルを探しに出かける。道中、蜂に追いかけられたり、鹿に攻められて木や崖から落ちたりするなどいくつかの災難に遭う。最終的に、カエルが家族と一緒にいるのを見つけるが、そのうちの二匹と一緒に帰る。

移動のイベントには、移動物 (Figure)、移動の経路 (Path)、移動に関わる参照物 (Ground)、移動の様態 (Manner) という要素が関わり合っており、アラビア語学習者及びアラビア語母語話者がどのように表現し、両者間にどのような違いが見られるかは興味深い研究対象である。

3.1. 学習者のナレーションから見る「動詞・副詞」の表現—母語話者と比較して

この調査では、中級レベルの学習者の動詞と副詞をどう表現するか、特に上に説明した副詞のパターンが学習者の表現にどのように現れるかを、*Frog Story* を使って調べた。興味深いのは、副詞を使う傾向が強く見られるが、「動名詞・分詞」の副詞表現がやや多く、「代名詞副詞」の使い方にやや不慣れ、「代名詞無し副詞」はまったく使われていなかったことである。例えば、「カエルを部屋の隅々まで探した」に対応する内容は以下のように表現されている。

(12) a. bahaθa: ʃan^ id'dʒifdaʃ-i fi^ l-yurfat-i
search.perf.2dl.ml. about def.frog-gen. at def-room-gen.

bi-l-ka:mil-i

with-def-perfect-gen(completely)

二人（少年と犬）はカエルを部屋で完全に探した。

b. yabhaθu^ l-walad-u ʃan^ id'dʒifdaʃ-i
search.imper.3sing.ml. def-boy-nom. about frog-gen.

ka:mil-an

perfect-acc.

少年はカエルを完全に探す。

c. al-walad-u wa^ l-kalb-u yufatti[u:na
 def-boy-nom. and def-dog-nom. investigate.imper.3pl.

hawla^ l-yurfat-i
 around def-room-gen.

少年と犬は部屋の周りを探す。

d. bahaθa^ tʔifl-u ʃan^ idʔifdaʃ kull ʔama:kin
 search.perf.2dl.ml. def.child-nom about def. frog-gen. all place.pl.

fi^ l-yurfa, wa^ l-kalb ʔadxal raʔs-a-hu

at def-room-gen. and def-dog enter.perf.3sing.ml head-acc-poss.3sing.ml.

ila: da:xila^ l-qinni:na

to inside def-bottle

子供は部屋のあらゆる所でカエルを探して、犬はボトルの中へ頭を入れた。

3人の学習者のうち、2人(12a, b)は bilka:mili, ka:milan 「完全に」という意味のほぼ同じ副詞表現を使っている。両者は生産性の高い動名詞・分詞副詞であるが、このような副詞は、基本的に、あることを最後までやり切ることを描写する（例文 13）もので、部屋を隅々まで探すというニュアンスを伝えることができない。

(13) dammara^ l-jajf-u^ l-madi:nat-a
 destroy.perf.3sing.ml. def-army-nom. def-city-acc.

bi-l-ka:mil-i

with-def-perfect-gen (completely)

軍隊は町を完全に壊した。

また、例文(12c)では、hawla「周り」が使われており、部屋の外を探すという解釈になるため、不適切である。例文(12)の中で、正解に最も近いのは(12d)である。

次に、少年が窓から外を覗いている時に犬が窓から落ちた絵を、副詞を使って細かく描写しているが、副詞によってどの要素が描写されているかは学習者によって異なっている。

(14) a. qafaza^ l-kalb-u mina^ ʃʃubba:k-i wa
 jump.perf.3sing.ml def-dog-nom from def.window-gen and

yanzʔuru^ l-walad-u ʔila^ l-kalb-i qalʔiq-an

see.imper.3sing.ml def-boy-nom to the-dog-gen worrying

犬が窓から飛び出して、男の子は心配そうに犬を見ている。

b. qafaza[^] l-kalb-u mina[^] ʃʃubba:k-i fajʔat-an
 jump.perf.3sing.ml def-dog-nom from def.window-gen suddenly
 犬は急に窓から飛び出した。

この絵では、学習者も母語話者と同様に、「犬の落下」を主なイベントとして表現しているが、4名の母語話者が副詞を使用していないのに対して、学習者は副詞表現を使う傾向があり、(14a)では男の子の様態を、(14b)では犬の様態を表している。

5人のアラビア語学習者のうち、語学学校や大学でアラビア語を学習せず、留学しながら独学した人が一人いる。その人は文法的なミスや語彙の誤用は比較的少ないものの、本稿で扱う副詞を使っていないことが分かった。また、大学でアラビア語を学習した人の方が副詞を上手に使えると言える。副詞の種類・使い方・機能などは、独学はもちろん、語学学校などで学ぶより、大学でアカデミックに学習した方が、適切に身に付けることができるようである。

男の子と犬がカエルを探しに森へと旅に出た絵を描写する表現にも以下のように副詞が使われている。

(15) za:ra ya:ba li-yabhaθa ʃan[^] idʔdʔifdaʃ
 visit.perf.3sing.ml forest to-look for.imperf.3sing.ml about def.frog
wa huwa yuna:di:
 and he call.imperf.3sing.ml
 (男の子は) カエルを探すために (カエルを) 呼びながら森を訪れた。

この文では、主語明示副詞節を使い、「森を訪れた」と「カエルを呼ぶ」ことが同時に起きた二つの出来事として表現されている。一方、2名の母語話者の表現(例文16)では、主語非明示副詞が用いられている。

(16) a. xaraja: maʃan yabhaθa: ʃan[^] idʔdʔifdaʃ
 get out.perf.3dl.ml together look for.imper.3dl.ml about def.frog
 fi[^] l-ya:ba[^] l-qari:ba mina[^] l-manzil
 in def-forest def-close from def-house
 家に近い森にカエルを探しに出かけた。

b. ya:dara Karim wa Life al-manzil wa ḏahaba:
 leave.perf.3sing.ml Karim and Life def-house and go.perf.3dl.ml
 ila[^] l-ya:ba yabhaθa: ʃan Mimo
 to def-forest look for-imper.3dl.ml about Mimo
 カリーム(男の子)とライフ(犬)は家を出て、森にミモ(カエル)を探しに行った。

(16a, b)では、森に行った目的である「カエルを探す」イベントを表すのは主語非明示副詞節である。また、母語話者の表現では、絵本の登場人物に名前を付ける傾向が見られた。

副詞節は次のイベントを描写する際にも用いられている。森でカエルを探している時に、穴(動物の巣)を見つけたので、そこを覗いてカエルを探したが、犬はハチの巣が気になって仕方なかった、というイベントの解説では、4名の母語話者のナレーション(17)では、主語明示副詞(2名)及び主語非明示副詞(2名)を用いて描写しているのに対して、5人の学習者のナレーション(17')では副詞が一つも見られなかった。

(17) a. wa fi: aθna:? bahθi-hima:, wajada Muhammad hufra fi^
and in during search-poss.3dl. find.perf.3sing.ml. Muhammad hole in
l-ardf, wa ?axath yuna:di: fiha: ʕala^ d'd'ifdaʕ,
def-ground and begin.perf.3sing.ml. call.imper.3sing.ml. in.it on def.frog
wa kalbu-hu yalʕab maʕa xaliyyati^nnahl

and dog-poss.3sing.ml play.imper.3sing.ml with beehive
探している途中、ムハンマドは地面に穴を見つけたので、その中に向かってカエルを呼んでいたが、その間、犬はハチの巣で遊んでいた。

b. ?aθna:? bahθihima: ʕan Mimo, wajada Karim hufra,
during search-poss.3dl. about Mimo find.perf.3sing.ml. Karim hole
ðahaba yanz'uru fi:ha:, wa fi: nafsi^lwaqt,
go.perf.3sing.ml. look.imper.3sing.ml. in.it and in the same time
ka:na Life yuta:biʕu ʕuʕfa^ddaba:bi:r.
be.perf.3sing.ml. Life watch.imper.3sing.ml. wasp's nest

ミモ(カエル)を探している途中、カリムは穴を見つけたので、中を見に行き、ライフはハチの巣を見ていた。

c. wajada^ l-walad hufra, fa-ha:wala^ stikʕa:fi-ha:,
find.perf.3sing.ml. def-boy hole therefore-try.perf.3sing.ml. discovery-gen.3sing.fem.
wa^ l-kalbu yastakʕifu xaliyyat-a^nnahl
and def-dog discover.imper.3sing.ml. beehive

男の子が穴を見つけたので、中を見ようとしていた間、犬はハチの巣をみていた。

d. wa bainama: yabhaθu Malek fi: ha:ðihi^ l-hufra,
and during search.imper.3sing.ml. Malek in this.fem. def-hole
ra:ha Life yaʕbaθu bi-ʕuʕi^ddaba:bi:r
go.perf.3sing.ml. Life play.imper.3sing.ml. with-wasp's nest

マーレクが穴で(カエルを)探していた時、ライフはハチの巣を見に行った。

- (17') a. yanz^uuru[^] tʔifl ʔila: da:xila hufra sʔayi:ra,
 look.imper.3sing.ml. def.child to inside hole small
wa fi: nafs[^]lwaqt al-kalbu yahtammu bi-xaliyyat-i[^]nnahl
 and in the same time def-dog be interest in.imper.3sing.ml. with-beehive
 子供が小さな穴の中を見ている間に、犬はハチの巣に興味を持っている。
- b. na:da[^] l-walad ʔala: dʔifdaʔi-hi tija:ha[^] l-hufra,
 call.perf.3sing.ml. def-boy on frog-poss.3sing.ml. towards def-hole
wa nabaha[^] l-kalb ila: xaliyyati[^]nnahl
 and bark.perf.3sing.ml. def-dog to beehive
 男の子が穴に向かって自分のカエルを呼んで、犬がハチの巣に向かって吠えた。

考えられる理由として、二つのイベントにおいて二つの動作主が出現していることが挙げられる。アラビア語学習者の副詞節を見ると、主節と副詞節の二つのイベントに出現する主語は非同人物だけであり、上記のように二つのイベントにそれぞれ異なる動作主が出現する際には、副詞節を使わず、「同時に」を表す句 fi: nafs[^]lwaqt や等位節の接辞「そして、と」wa が使われている。主語が異なっても、主語明示副詞が使えるという認識が学習者には薄いようである。

3.2. 学習者のナレーションから見る「副詞表現」以外の要素：動詞用法について

以下では、動詞及び動詞と共に共起する前置詞、名詞、文や節の接続といった副詞表現以外の要素はどのように表現されているかを説明する。

まずは、学習者によって用いられた動詞を見て、母語話者のそれとどう異なるかを調べたいと思う。学習者は、アラビア語の VS という語順には馴染みがないにもかかわらず、この語順を使う頻度が母語話者より高いことが分かった。但し、動詞の時制は母語話者と異なるところが見られる。学習者のうち2名は、動詞の未完了形、1名は完了形、1名は完了進行形、1名は動詞を使わず名詞述語文を使っているが、母語話者は全員、特に「住む」「生活する」は完了進行形を用いている。例文(18)は、子供と犬が容器に入ったカエルを観察している、という内容の絵を学習者が表現したものであり、例文(19)は同じ内容についての母語話者の発話である。

- (18) a. yaskun tʔifl maʔa kalb wa dʔifdaʔ...
 live.imper.3sing.ml. child with dog and frog
 子供は犬とカエルと住む (住んでいる)。

b. yaʕabu[^] l-walad wa[^] l-kalb maʕa[^] dʕiʕdaʕ...
 play.imper.3sing.ml. def-boy and def-dog with def.frog
 男の子と犬は蛙と遊ぶ（遊んでいる）。

c. ʕa:hada ʕifl wa kalb dʕiʕdaʕ fi: zuja:ja...
 watch.perf.3sing.ml. child and dog frog in bottle
 子供と犬はビンの中にいるカエルを観た。

d. fi: ʕa:ti laila, ka:na[^] l-walad wa[^] l-kalb
 in one night be.perf.3sing.ml. def-boy and def-dog
yataʕmamu:na[^] dʕiʕdaʕ fi[^] zzuja:ja...
 watch carefully.imper.3pl. def.frog in def.bottle
 ある夜、男の子と犬はビンの中のカエルを見張っていた。

(19) a. ka:n ya:ma:ka:n, ka:na huna:ka walad
 once upon a time be.perf.3sing.ml. there boy
yaʕi:f maʕa kalbi-hi wa dʕiʕdaʕ...
 live.imper.3sing.ml. with dog-poss.3sing.ml. and frog
 あるところに、犬とカエルと一緒に暮らしている男の子がいた。

b. ʕa:ta masa:, ka:na Muhammad wa kalbu-hu
 one night be.perf.3sing.ml. Muhammad and dog-poss.3sing.ml.
yaʕaba:ni maʕa[^] dʕiʕdaʕi[^] sʕsʕay:r...
 play.imper.3dl. with def.frog def.small
 ある夜、ムハンマドと彼の犬は小さなカエルと遊んでいた。

アラビア語だけでなく日本語でも、「住む」や「生活する」にはアクティビティーではなく状態を表しているなので、これらの動詞は「生活している・いた」「住んでいる・いた」という（未）完了進行形を使う方が自然である。

男の子は朝起きたら、容器にカエルがないことに気づいた、という内容は1名の学習者しか適切な動詞が使われていないが、それは日本語の影響によるものと考えられる。

(20) a. yadan, la:hazʕa ʕadam wuju:d-i[^] dʕiʕdaʕ fi:
 tomorrow, observe.perf.3sing.ml. not existence-gen. def.frog in
 yurfat-i-hi.
 room-gen-poss.3sing.ml.
 翌朝⁴、部屋にカエルがないことに気付いた。

⁴ 実際のデータには、「明日」に当たる単語を誤用している。

- b. wa la:hazʔa[^] tʔifl-u yiya:b-a[^] dʔdʔifdaʔ
 and observe.perf.3sing.ml. def.child-nom absence-acc. def.frog
 そして、子供はカエルの留守に気付いた。
- c. ʕarafa: ʔanna[^] dʔdʔifdaʔ yair mawju:d baʕda ʔan[^] istaiqazʔa:
 know.perf.3sing.ml that def.frog not found after that wake.perf.3sing.
 起きた後、カエルがいないことを知った。
- d. fiʔl-yawmiʔtta:li:, istaiqazʔa[^] l-walad wa kalbu-hu
 in the following day, wake.perf.3sing.ml. def-boy and dog-poss.3sing.ml.
wawajada: wiʕa:ʔ-a[^] dʔdʔifdaʔ xa:lyan.
 find.perf.3dl. container-acc. def.frog empty
 翌日、男の子と犬が起きて、容器が空であることに気付いた。

この状況を表すのに「見つける」に当たる動詞 *wajada* が最適であるが、日本語の表現なら、「気づく・分かる」という認知動詞が用いられるのは自然であり、その影響がアラビア語の表現に現れている。学習者が用いている *la:hazʔa*（「気が付く」に相当）及び *ʕarafa*（「知る」に相当）は、それぞれ日本語の動詞の意味内容と異なるため、この状況で用いるのは不自然である。まず、*la:hazʔa* という動詞は、動作主が対象を観察した結果あることに気が付く、という状況いで用いられる。例文(21a)では、相手の顔や行動をしばらく見て気づいた様子を語っている。当該の内容はそれに当てはまらないため、不適切と感じられるのだと思われる。

また、*ʕarafa* という動詞に関しても、表したい内容とは異なる意味をもつと考えられる。この動詞は、知識の獲得(21b)、または、状況を判断しての推測(21c)、という意味を含んでおり、朝起きた少年が見てすぐ分かる状況を語るのには不適切と感じられるのであろう。

- (21) a. la:hazʔtu ʕalai-ha[^] l-irtiba:k-a.
 observe.perf.3sing.ml. on-gen.3sing.fem. def-confusion-acc.
 私は彼女が当惑していることに気付いた。
- b. ʕarafa[^] dʔdʔabitʔ-u maka:n-a[^] llisʔsʔi.
 know.perf.3sing.ml. policeman-nom place-acc. def.theif-gen.
 警官は泥棒の場所が分かった。
- c. *wajada* sʔad:qat-a-ha: bimufradi-ha,
 find.perf.3sing.ml. friend.fem.sing-acc-poss.3sing.fem alone-poss.3sing.fem.
fa-ʕarafa anna-ha: lam tasʔila baʕda.
 therefore-know.perf.3sing.ml. that-3sing.fem. not arrive.imper.3sing.fem yet
 彼女の友達が一人だったので、彼女はまだ到着していないことが分かった。

3.3. まとめ

本節では、学習者の副詞及び動詞の使い方について調べ、母語話者と比べてみた。学習者は名詞・分詞副詞句を母語話者より多く使用したことがわかった。また、主語明示副詞節は、主節と副詞節の主語が同一指示の場合のみ使われており、主語非明示副詞節は全く使われていなかった。副詞表現の使用に関しては、学習歴が関わっているように思えた。大学で文法をしつかり学習した人ほど副詞が自然に使えられると思われる。

表 5.

項目	学習者使用回数		母語話者使用回数
	大学で学習	大学以外で学習	
名詞・分詞副詞	13	1	9
主語明示副詞節	7	0	11
主語非明示副詞節	0	0	5
使用回数合計	21		26
	20	1	

4. 最後に

本稿は、日本語母語話者であるアラビア語学習者がイベントを語る際の表現を調査し、副詞表現及び動詞がどのように使用されているかを調べ、アラビア語母語話者とどう異なるか、また、なぜ異なるかを検討したものである。調査対象者は、語学学校に通ったり現地で生活したりしたことがある者が2名、日本の大学で学習した者が3名であり、両者には副詞の使い方において違いが見られた。両者の文法的知識はほぼ同じであるが、前者は主語明示副詞・主語非明示副詞を使っておらず、名詞・分詞の副詞句は一回のみ用いたことから、副詞の使用に関して認識が薄いと言える。また、興味深いことに、名詞・分詞副詞に関しては、大学で学習した者の方が母語話者より使用頻度が高かった。

主語明示副詞節に関しては、母語話者は使用頻度が高いが、その理由は、母語話者と学習者では、この種の副詞が生じる統語的な環境の相違にある。すなわち、母語話者が主語明示副詞節を副詞節と主節の主語が異なっても用いたのに対して、学習者は主節と副詞節の主語が同一である場合のみこの種の副詞節を用いた。学習者は、主語明示副詞節は同一指示の場合のみ使えるという誤った文法知識を持っているのかもしれない。

主語非明示副詞は、学習者の表現に一度も観察されず、また、文法書や教科書でも紹介されていないため、学習者はその存在すら知らないのではないと思われる。

今後は、アラビア語の副詞表現のそれぞれの用法・機能・統語的な特徴を学習者にどのように提示すればよいかを考えていく必要がある。

略号一覧

acc:	accusative
def:	definite article
dl:	dual
fem:	female
gen:	genitive case
imper:	imperfective
ml:	male
nom:	nominative case
poss:	possessive
perf.:	perfective
rel.cl.:	relative clause
3sing:	third person, singular
1sing:	1st person, singular

参考文献

- Badawi, Elsaid, Cater Michael, and Gully Andrian (2002) *Modern Written Arabic: A Comprehensive Grammar*. Routledge.
- Givón, Talmy (1990) *Syntax: A Functional Typological Introduction*, Vol. 2. John Benjamins Publishing Company
- Holes, Clive (2004) *Modern Arabic: Structures, Functions, and Varieties*. Georgetown University Press,
- Haiman, John (1985) *Natural Syntax: Iconicity and Erosion*. Cambridge University Press.
- ハッサンエバ (2011) 「アラビア語の動詞に基づく副詞節について—類像性から見た動詞形副詞節をめぐって—」『関西言語学会論文集』31, 144-155.
- 松本曜 (1997) 「空間移動の言語表現とその拡張」. 中右実 (編), 『空間と移動の表現』, 128-153. 研究社, 東京.
- 南不二男 (1974) 『現代日本語の構造』大修館書店. 東京.
- 森田良行 (2008) 『動詞・形容詞・副詞の辞典』東京堂出版. 147-150.
- Neama, Foad (1973) *Molaxas qawaidi-llu yati al-šarabi:yati*, 75-78. Nahdat Masr, Cairo.
- Slobin, I. Dan (1996) From “Thought and Language” to “Thinking for Speaking”. *Rethinking Linguistic relativity*, in Gomperz, J. & Levinson, C. (eds.), 70-96. Cambridge University Press.
- Wright, William (1975) *A Grammar of the Arabic Language*, 282-290. Cambridge University Press.
- 吉成祐子 (2014) 「日本語らしい表現を検証する方法の提案：日本語母語話者と学習者の移動事象記述の比較より」 *Journal CAJLE* 15, 21-40.

Standard Arabic Expressions in Narration by Native Japanese Speakers: Focusing on Verbal and Adverbial Expressions

Eba Hassan
ebahssn@gmail.com

Keywords: standard Arabic, adverbs, verbs, Arabic language learners

Abstract

This study is aimed at investigating Arabic narration by native speakers of Japanese, primarily focusing on adverbial expressions used when they narrate the events in ‘The Frog Story’. First, the Arabic adverbial clauses are classified into three types based on morphosyntactic as well as functional differences. This is followed by the examination of the ways events are coded via adverbial expressions and verbs.

The first type of adverbial expression, called “noun/participle adverbs” in this paper, is constituted by a verb participle and affixes agreeing with the main clause subject in number and gender. The verb participle adverb does not carry tense. This kind of adverb describes an aspect of the situation designated by the main clause, specifying the details of the main event.

It turns out that Japanese learners of Arabic tend to use adverbs of this kind more often than native Arabic speakers do.

The second type, called “explicit subject adverbial clause”, consists of a conjunctive particle, a subject pronoun, and a verb. The verb is always imperfect, and the subject need not be coreferential with the main clause subject, which makes this type the most independent among the three. The results show that Japanese learners of Arabic tend to use this adverbial clause less often than native speakers do. This may be because they do not realize that the subject of the adverbial clause does not need to be coreferential with the main clause subject.

The third type, called “non-explicit subject adverbial clause”, consists of only a verb in the imperfect, and lacks a conjunctive particle and a pronominal subject. This kind of adverbial clause describes a situation or an event that has a causal relation with the main clause event. This kind is not found in the learners’ narration, which suggests that they do not even know that Arabic has this kind of clause.

(ハッサン・エバ)